



三枝祭神楽 奈良市本子守町で、大神神社提供

安産育児 市内最古の神社

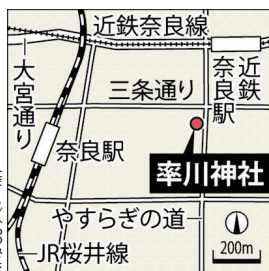


(住所) 奈良市本子守町18
 (祭神) 媛踏躰五十鈴姫命、狹井大神、
 玉櫛姫命
 (交通) 近鉄奈良駅から徒歩約5分

(拝観) 境内自由。6月17日の祭典中は境内立ち入り不可。今年の行列はコロナ対策のため中止
 (駐車場) 無

率川神社

(奈良市)



率川神社は593(推古天皇元年、大三輪君白堤が勅命により創祀した奈良市内で最古の神社(大神神社摂社)で、正式名称は率川坐大神御子神社です。本殿正面に祭られる祭神の媛踏躰五十鈴姫命は初代神武天皇の皇后です。本殿左側には父神の狹井大神、右

側には母神の玉櫛姫命を祭り、御子神を両側か

ら見守るように鎮座していることから「子守明神」と称えられ、安産、育児、息災延命の神さまとして信仰を集めています。皇后を主祭神とした神社は全国でも珍しく、周辺の町名やバス停名も「本子守町」で、その由

来がうかがえます。毎年6月17日、前日の「ささゆり奉献奉告祭」「宵宮祭」に続き、例祭「三枝祭」が斎行されます。701年、大宝令に国家の祭祀として定められた神事で「ゆりまつり」の名で知られており、ササユリの花で黒酒・白酒の酒樽を飾って神前に

お供えしたあと、4人の巫女がヒカゲノカズラを頭につけ、ササユリを手に「うま酒みわの舞」を舞います。本殿の祭りのあと7人の七媛女、ゆり姫、ゆり車を引く稚児らの行列が市内を巡ります。本殿は一間社春日造檜皮葺の建物が3棟並び、創建は江戸時代前期と考えられ、県指定有形文化財となっています。(奈良まほろばソムリエの会員 松田雅善)